



二俣川小だより



2月号

横浜市立二俣川小学校 令和2年1月24日

発行責任者 校長 池田 千晶

実りの冬

副校長 船木 淳

大寒を過ぎ、1年で一番寒いとされる時期となりました。令和元年度も、残すところあと2か月。学校では、今年度のまとめや振り返りを行うと同時に、来年度へ向けての準備を計画的に実施しています。

最近の子どもたちの様子を見て感じることは、それぞれの子どもたちは、それぞれの場所で実りの時を迎えようとしているということです。

10日に避難訓練を実施しました。内容は「土砂災害」を想定したもので、学校の西側の斜面が崩れたことに対応する訓練です。昨年度から始めたこの訓練、職員室は土砂で使えないという想定で、全校に指示を出す本部を3階の放送室に設置します。避難指示を出した後に廊下へ出てみると、体育館までの通路が渋滞し、中学年のクラスが列を作っていました。避難経路が東階段1つになるので、体育館までの行列ができるのは仕方ありません。これまでの避難訓練であれば、なかなか進まない行列に我慢できず、おしゃべりを始める子がありました。ところがこの日は、まったくと言っていいほど話し声が聞こえません。

全員が避難を終え担当者が話をはじめると、一気に多くの目が話し手に集まります。途中で防災ヘルメットを取ったり、話し手が変わったりすることがありましたが、子どもたちの集中した視線は変わることがありませんでした。

落ち着いた雰囲気は訓練が終わっても続きます。教室へ戻る順番を待つ高学年の子どもたちは、自分の番が来るまで私語もなく整然と待っていました。そして、そうすることが当たり前のように体育館を後にしました。

もう一つ印象に残っているのは、出張する担任の補助に入った低学年のクラスです。午後の1時間、自習の課題は「プリントを2枚やること」「終わったら読書または机でできることをする」の2つ。事前に説明を受けていた子どもたちは、自分たちでプリントを配り、日直が号令をかけ、各々がプリントに向かいました。聞こえてくるのは鉛筆を走らせる音だけ。こちらから話しかけるのはばかられるくらい、黙々と取り組む子どもたち。あっという間に45分が過ぎ、課題を終え、帰りの会をして下校しました。

担任不在という気が緩んでしまいがちな状況の中、全員がめあてを理解し、課題をやり抜く姿は、前期には見られないものでした。

学校では日々物語が生まれます。冬から春に向かうこの時期、様々な経験を経て着実に成長し変わっていく子どもたちの姿を見ることができるのは、何より幸せなことです。

2月4日は立春。「最も寒い日」からたった2週間で季節が変わることに多少の違和感を覚えつつも、校庭の桜の木には硬く引き締まったつぼみを見つけることができます。子どもたちの成長を支えていただいている地域や保護者の方々に感謝の気持ちを持ち、しっかりと準備をして春を迎えたいと思います。